

字

勞務甲第五八號

大正十二年九月廿五日

警視總監 湯淺倉平

- 内務大臣 後藤新平殿
- 関東戒嚴司令官 山梨半造殿
- 臨時震災救護事務局副總裁殿
- 社會局長官 池田宏殿
- 神奈川縣知事殿
- 司法省刑事局長殿
- 東京控訴院檢事長殿
- 東京地方裁判所檢事正殿

有及申(直)報(三)也

重復米糶書中

此後之情形也

保技師長ハ會社ノ窮狀ヲ望ミテ詳述シテ要求ニ應
 シ難シト回答シタルニ職工側ハ然ラハ當然執ルベキ
 手段ニ出ツル外ナシト云結局物別レトナリ月退場セ
 ルガ其後多數集合協議スルカ如キ模様ナク亦之迄
 勞働團體トシテ交渉中ニ彼等ノ所謂當然執ルベキ
 手段トシテ店主小西右五門ト直接交渉セントノ意ナ
 ルガ如ク會社側ニテモ震災ノ結果トシテ冷酷ノ取扱
 ヲ為シ社會ノ同情ヲ失フカ如キニトアリテ將來ノ信用
 閉スルヲ以テ尚一應熟議シ遂ク善處ヲ方針トシ
 二件甚タシキ紛争ナラザル決ニ至ルベキニ案節柄嚴
 重視米糶書中